



みなさまこんにちは。3月16日に発生した福島県沖地震におきまして、被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。ここ南相馬市でも、震度6強の強い揺れにただただおびえるばかりでした。その後、停電や断水などライフラインにも影響があった方々も数多くいらっしゃいます。深夜という時間帯での津波注意報、本当に11年前の東日本大震災を思い出さずにはいられない状況だったかと思えます。震災の教訓から日頃の備えはしていたつもりでも、まだまだ危機管理の薄さを痛感しました。2年前の豪雨災害について、昨年2月の地震、そして今回の地震と本当にもう勘弁してほしいです。自然災害を私たち人間の手で止めることはできませんが、日々の備えと命を守る行動を心がけることに尽きると思います。現代の生活に欠かせない電気や水などのライフラインも、日々の生活ではあって当たり前のように感じますが、災害時には本当に有難みを感じます。日頃から節水・節電に努めようと改めて思いました。

さて、いよいよ4月！新年度のスタートです！今月もお客様に喜んでいただけるような催事企画となりますので張り切ってまいります！

<hibicolle(ヒビコレ)の新作BOOK>

当店で取り扱い中のブランド「hibicolle(ヒビコレ)」の新作BOOKが届きました。おめかし系ふだんきものをコンセプトに、今回は人気の和菓子作家・坂本紫穂さんとコラボレーションしました。店頭で配布しておりますので、お気軽にお声かけください。



【琥珀糖】

新作BOOKの表紙を飾るのは、麻の葉の地紋の生地に、型で柄をおいてから手差して彩色した小紋。一点一点違う色のパターンは唯一無二のもの。柄の面積が多いため、均等に染めるのはまさに職人技。微妙な色の違いも手仕事ならではの。 (写真左)



【チェリーブlossam】

複雑な色の重なりを狙って、デジタル捺染で横段の柄を染めた上に、さらに手染めで横段のぼかしを桜のイメージで重ね染を施した小紋。きもの作家・中野光太郎氏の作品です。(写真右)



【ブルーオペラ】

生産数が少ない長浜の紬生地に、3色のぼかし染めを施した小紋。ぼかし染めをした部分の染め足のグラデーションが特徴。大胆ながら好感度の高いブロック柄は着る人の個性が引き立ちます。(写真上)



【ポタニカル】

丹後の紋意匠生地を使用した型染め小紋。色ゴム糊を使い、柄の線が真っ白にならないように調整。フリーハンド風の自由な感覚のデザインで、花柄でありながらあえて色使いをひかえた大人の一枚。(写真左)



< よろづ屋 きものがたり～丹後ちりめん～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第16回目は、日本の着物づくりを支える歴史ある高級絹織物・丹後ちりめん

丹後ちりめんは京都府丹後地域を中心に生産される絹織物で、表面にシボと呼ばれる細かい凹凸があることが特徴です。シボがあることにより、シワになりにくく、しなやかで柔軟性があり、凹凸の乱反射によって染め上がりの色合いが豊かで深みのある色を醸し出すことができ、絹の風合いを發揮する織物として知られています。そもそもちりめんとは、経糸(たていと)と生糸を強く燃った緯糸(よこいと)を交互に織り込み、精練という不純物を取り除く作業によって、表面にシボが生まれた白くて美しい織物のことです。



丹後ちりめんの緯糸には1メートルあたり3,000回もの強い撚りがかけられており、精練作業で糸が収縮、緯糸の撚りが戻ろうとする力で、生地には細かい凹凸状の模様美しいシボが生まれます。



絹糸の使用率は全国の3割を占め、友禅染めなどに用いられる日本の着物生地のおよそ7割が丹後で生産されています。丹後でつくられたちりめんは、多くは京都・室町などに送られ問屋から各地へと広まり、染色がなされています。丹後は日本の着物作りの下支えをしているのだといっても過言ではありません。丹後ちりめんが今日まで発達した理由には、丹後の気候と風土が織物に適していたことがあげられます。丹後は山・川・海がコンパクトに密集しており、良質な水が流れていることが特徴です。また「うらにし」と呼ばれる季節風により、湿気を含んだ雨が降る地域でもあります。

まさに丹後ちりめんは、丹後に流れる良質の水と年間を通して適度な湿度により育まれてきたというわけです。また、古くから絹織物が織られていたことや、養蚕地が近くにあったことも発展の理由の1つとされています。このような環境で織物産業が栄えた丹後の街並みは、2017年に日本遺産に認定されています。さらに、丹後ちりめんは2005年から海外展開を行い、世界的なブランドが丹後の生地を活用するまでになっています。和装だけでなく洋服やインテリアなど、これまでの「丹後ちりめん」のイメージの枠にとどまらない分野や商品も多くなっており、それらを世界にアピールするための新しいロゴ「TANGO OPEN」を2018年に発表、海外の展示会などでも注目を集めています。

ため息が出るような
な絨意匠のちりめんも
丹後ならではの



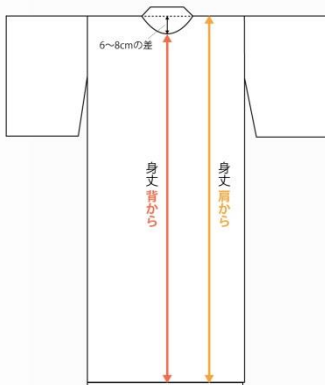
知っておきたい寸法のこと

せっかくのお読みの着物、みなさんご自分の寸法はご存知ですか？仕立てる際や購入時の参考に、寸法のことをもっと知しましょう。

～その1 身丈～

身丈とは着物の身頃の長さのことで、だいたい身長と同じくらいとっていて間違いありません。肩からと背からとありますが、当店では肩からの身丈でお客様の身長+2～3cm前後で仕立てております。大切なお着物はできるだけ長く着たいものです。また、次の

身丈肩から＝身丈背から+繰越・付け込み(6～8cm)
※身丈を肩からと背からのどちらで採寸するかにより、6～8cmの差が出ます。



世代に引き継ぐことなどを考えて身丈を長くとおっしゃるお客様もいらっしゃるくらい、身丈が短いものは着られる身長が限られてしまいます。衿や身幅などはお直しで何とかある場合がありますが、身丈は出せるだけしか長くすることができません。リユースの着物などを購入する際も身丈に注意してください。また、体形などの変化によって、身丈の寸法が変わってなくとも短く感じる場合もあります。

今月のおススメ！



持ち運び専用
携帯用たとう紙
3,300円(税込)

今回ご紹介するのは、着物の持ち運びに便利な携帯用たとう紙です。きものを着る人、「きものを着たい」と思う人に、手の届きやすい身近な情報を紹介しながら、今の暮らしにふさわしい着こなしを提案する着物雑誌「七緒」。その七緒で何度も紹介されている、携帯用たとう紙です。旅行やお出掛けなどで着物を持ち運ぶ時に一番に思うのは、「シワにならないように持って行きたい」と、「コンパクトにまとめたい」ではないでしょうか。その二つを叶えるのがこちらの携帯用たとう紙です。「持ち運び専用」として作られているため、使い方が簡単でシワやヨレからきものを守ってくれます。

和装バッグはもちろん、普通のキャリーケースにも入れられる大きさです。畳んで着脱テープで止めるだけなのでどなたでも簡単に使用できます。強度に適した素材で、大切なお着物もしっかりと守ってくれます。着付けのお稽古などで着物を持ち運びする時も便利です！



・・・若女将のつばやき・・・

春です！ピンクに色づいた桜や黄色の菜の花、青い空、緑の草花。本当に世界は色であふれています。今年は和の色名をたくさん覚えたくて、季節の色の日めくりを購入しました。なんでも三日坊主と通信簿に書かれた私が、きちんと毎日めくっております。季節の色や和の色名が書かれたこのカレンダー、とにかく写真がきれい！色は私たちの暮らしを豊かにしてくれますね。毎日ワクワクしてめくっています。

それから最近流行り？の<誕生日カラー占い>ご存知ですか。ご自分の誕生日が何色でどのような意味を持つのか、右のQRコードからアクセスしてみてください！



誕生日カラー占い

